

暖地型優良牧草

夏期間を利用した乾草調製に最適です。

ローズグラス

- 本来は多年草であるが沖縄県を除いて実用的な越冬が困難、通常一年草として利用されています。
- 粗剛な割に嗜好性が優れ、風乾率が高く乾草歩留りが良好です。
- 比較的耐湿性が強く、耐塩性も強く、耕地・転換畑を問わず作りやすく、ここ数年栽培面積が急増しています。

ローズグラスの品種と使いわけ

- 二倍体の「カタンボラ」と四倍体の「ボマ」が代表的で、四倍体品種は通常九州でも出穂しない。
- 一方、二倍体品種は関東でも5月中旬の播種で7月中～下旬に出穂し、刈り取っても約1カ月後には出穂し、この出穂性を刈り取り適期の指標に役立てることができる。
- 「カタンボラ」の出穂期の草姿を写真に示している。地上ほふく茎も多く、各節から発根し、機械踏圧にも強い特性をそなえている。
- 四倍体の「ボマ」はいつまで待っても出穂せず、刈り遅れによる品質低下と再生不良を招くことが多い。従って草丈1m前後で1番草の収穫を行い、以後約1カ月間隔で刈り取りを重ねると良い。
- 二倍体と四倍体の収量性は「カタンボラ」と「ボマ」を比較する限りほぼ同程度で、千葉における4回刈りで生草6～7t、風乾物で1.5tと高収が得られている。



ローズグラス「カタンボラ」

グリーンパニック

- ローズグラス同様越冬することができず、一年草として利用され、比較的葉が柔らかで、出穂茎数も多く、乾草としての品質・嗜好性は極めて良好です。
- 耐湿性はローズグラスと比較してかなり劣り、転換畑では畑地化の進んだ乾田でなければ失敗することも多い。耕地での安定性・収量性は極めて良好です。
- 問題点に種子の休眠性があげられ、播種前のジベレリン処理が有効です。種子袋に添付されたジベレリンを用いた説明書の手順で浸漬処理を行うことが大切です。

カラードギニアグラス

- 草姿はグリーンパニックと類似し、同じく越冬できず1年利用草として青刈り・乾草調製に適します。
- 耐湿性ではローズグラスを上回り、水田転換畑では熱い注目を集めています。種子の流通量が少なく、栽培にあたっては早目の種子手当てが必要です。



グリーンパニック